Japan Foundation for
Regional Art-Activities

地域創造レター

News Letter to Arts Crew

8月号—No.256
2016.7.25
（毎月1回25日発行）

【シュロ色】灰色がかった茶色。

ヤシ科の植物、シュロ（棕櫚）の幹を覆っているごわごわした茶色の繊維網（シュロ皮）に由来する色名。シュロ皮は強靭で水に強く、それを使った代表的な製品が昔懐かしい亀の子タワシだ。

●目次／*contents*

今月のニュース……2
平成29年度助成要綱決定
ステージラボ上田セッション報告

財団からのお知らせ……6
平成29年度「公共ホール音楽活性化事業」実施団体募集／平成29・30年度「公共ホール音楽活性化アウトリーチフォーラム事業」実施団体募集／平成29年度「邦楽地域活性化事業」実施団体募集／理事会、評議員会の開催結果／平成28年度「ステージラボ／公共ホール・劇場マネージャーコース」「文化政策幹部セミナー」参加者募集／平成28年度「公立美術館活性化事業」開幕

今月の情報……9
地域通信

今月のレポート……12
大阪市　山本能楽堂「初心者のための上方伝統芸能ナイト（英語編）」

発行元：一般財団法人地域創造
〒107-0052 東京都港区赤坂2-9-11
オリックス赤坂2丁目ビル 9F
Tel. 03-5573-4066　Fax. 03-5573-4060
URL: http://www.jafra.or.jp/

●平成28年9月30日(金)まで申請受け付け

平成29年度助成要綱が決定

平成29年度
助成要綱決定

「地域の文化・芸術活動助成事業」は、地方公共団体等の自主事業の企画制作能力の向上及び公立文化施設の利活用の推進等を図るため、地域において自主的に実施する文化・芸術活動を支援するものです。

また、「地域伝統芸能等保存事業」は、地方公共団体等が実施する、各地域固有の伝統芸能等の記録・保存・継承事業に対して助成するものです。

●地域の文化・芸術活動助成事業

[1]創造プログラム

◎一般分

地域の活性化に寄与する長期的展望を有し、発展的・継続的に事業を実施する上で他の地域の参考となるような顕著な工夫が認められる事業(最大3年間の助成。ただし、各年度の申請を審査した上で決定)。

◎企画制作力向上特別分

都道府県・政令指定都市が行う自主事業の企画制作力の向上や、他施設への波及効果をもたらす単年度の事業。

※創造プログラム(一般分)とは別枠で利用可能。

[2]連携プログラム

地方公共団体が単独では実施できず、経費削減など連携することにより初めて実施できるもので、3以上の地方公共団体が連携して、共同で制作する事業や、そのために行う連絡調整に係る事業(原則1年間。ただし、連絡調整に係る事業は、翌年度の公演等の助成も可能)。

[3]研修プログラム

公立文化施設等で企画運営に携わる職員や「地域文化コーディネーター」など地域の文化・芸術活動を担う者のスキルの向上、ノウハウの習得などを目指す実践的な人材育成事業(1年間)。

[4]公立文化施設活性化計画プログラム

公立文化施設の地域において果たすべき役割と、それを実現するための方策を登載した計画を策定する事業。

事業名		分野	事業実施者			
			地方公共団体			指定管
			都道府県	政令指定都市	市区町村	特定指定管理者(※)注1
地域の文化・芸術活動助成事業	[1]創造プログラム(一般分)				○	○
	創造プログラム(企画制作力向上特別分)				×	都道府県・政令指定
	[2]連携プログラム	音楽 演劇 ダンス 伝統芸能 美術 等	○	○		
	連絡調整事業				○	○
	[3]研修プログラム					
	[4]公立文化施設活性化計画プログラム					
地域伝統芸能等保存事業	[1]地方フェスティバル事業		○	○	○	○
	[2]映像記録保存事業	地域伝統芸能等	×	○	○	×
	[3]保存・継承活動支援事業					

●「地域の文化・芸術活動助成事業」に関する問い合わせ
総務部　三浦
Tel. 03-5573-4164

●「地域伝統芸能等保存事業」に関する問い合わせ
総務部　鈴江
Tel. 03-5573-4056

●地域伝統芸能等保存事業

［1］地方フェスティバル事業

地方公共団体が実施する、地域固有の伝統芸能等を保存・継承するための公演事業に対して助成する事業。

［2］映像記録保存事業

市区町村が実施する、各地域の失われつつあり、且つ記録に残されていない地域固有の伝統芸能等を映像に記録・保存する事業に対して助成する事業。

［3］保存・継承活動支援事業

市区町村が実施する、地域固有の伝統芸能等の保存・継承のために活動している団体等への支援事業に対して助成する事業。

●要綱、申請書及び申請期限

・助成要綱等は、当財団のウェブサイト（http://www.jafra.or.jp/）に掲載しています。

・申請書は、都道府県・政令指定都市が管内の市区町村等の分を取りまとめて、地域創造へ**平成28年9月30日（金）必着**で提出してください。各市区町村等においては、都道府県等のとりまとめ団体の期限も確認し提出してください。

（参考）平成28年度「地域の文化・芸術活動助成事業」採択実績

	申請事業数	決定事業数
創造プログラム（一般分）	93	75
創造プログラム（企画制作力向上特別分）	27	25
連携プログラム	56	36
研修プログラム	21	18
活性化計画プログラム	3	2
合計	200	156

（参考）平成28年度「地域伝統芸能等保存事業」採択実績

	申請事業数	決定事業数
地方フェスティバル事業	9	9
映像記録保存事業	8	7
保存・継承活動支援事業	14	13
合計	31	29

理者				助成措置			申請期限
一般指定管理者（※）注2	特定公益法人（※）注1	実行委員会等 注3	会場	助成率	助成の上限額（1年ごと1団体ごとの金額）	助成期間	
○	○	○	原則として、当該申請団体の区域内に所在する公立文化施設	1／2以内	1,000万円	3年以内	平成28年9月30日（金）必着
都市に係る指定管理者、特定公益法人、実行委員会等 ○						1年間	
○	○	○		2／3以内	500万円 ※連携する事業全体で3,000万円	1年間	
					100万円	事業前年1年間	
				2／3以内	200万円	1年間	
				2／3以内	200万円	2年以内	
○	○	○（保存会も含む）	原則として、当該申請団体の区域内に所在する公立文化施設	1／2以内	都道府県等：200万円 市区町村等：50万円	1年間	
×	×	×		2／3以内	200万円		
				1／2以内	30万円		

左表脚注

※
特定指定管理者とは、地方公共団体が1/2以上出資している公益財団法人等で指定管理者の指定を受けているものをいう。
一般指定管理者とは、上記以外の指定管理者をいう。
特定公益法人とは、地方公共団体が1/2以上出資している公益財団法人等で地域創造が特に認めたものをいう。

注1
設置者である地方公共団体の長の副申書を添付

注2
設置者である地方公共団体の予算を経由して間接的に助成

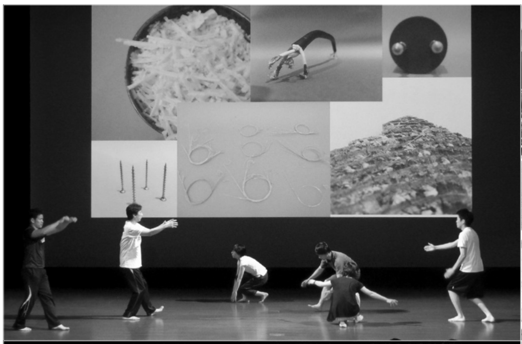
注3
地方公共団体が実行委員会等に対して負担する額を助成対象

●ステージラボ上田セッション

東信州の新たな文化拠点で開催

ステージラボ上田セッション報告

2016年7月5日〜8日



写真

左上：ホール入門コース「廃材ダンス」（講師：セレノグラフィカ）

右上：ホール入門コース「リサーチ：ここにしかないモノを探す」（講師：うかぶLLC、大月ヒロ子）

左下：自主事業Ⅰ（音楽）コース「音楽ワークショップ」（講師：中川賢一）

右下：自主事業Ⅱ（演劇）コース「ワークショップを考える〜体験篇」はミニ発表会をサントミューゼ交流芝生広場で行った（講師：南波圭、渡辺弘）

●コースコーディネーター

◎ホール入門コース
大月ヒロ子（有限会社イデア 代表取締役／国立歴史民俗博物館 客員准教授）

◎自主事業Ⅰ（音楽）コース
小澤櫻作（上田市交流文化芸術センター 音楽プロデューサー／（公財）北九州市芸術文化振興財団 音楽事業アドバイザー）

◎自主事業Ⅱ（演劇）コース
渡辺弘（彩の国さいたま芸術劇場 事業部長）

今回はホール入門、自主事業Ⅰ（音楽）、自主事業Ⅱ（演劇）の3コースが開講されました。会場となったのは、2014年10月に開館したばかりのサントミューゼ（上田市交流文化芸術センター）です。中庭を囲んだ半円形のユニークな建物で、本格的なコンサートや舞台芸術に対応したプロセニアム型の大ホール（1,530席）、小ホール（320席）を中心としたホール施設と上田市立美術館との複合施設となっています。クラシック音楽に力を入れ、「レジデンス・アーティスト」と名付けた協力演奏家と共に小学校へのアウトリーチや地域での出前演奏会、ホール演奏会などにトータルに取り組み、また市民参加演劇にも力を入れ、注目されています。

共通プログラムでは、IT技術の進展により新たな課題に直面している「著作権」をテーマにした講演会が行われました。講師は内閣府の「次世代知財システム検討委員会」の委員であり、多くの劇場、劇団、レコード会社、出版社などをサポートする福井健策弁護士です。著作権の基礎から、SNSの炎上問題、人工知能の著作権までを丁寧に解説。受講者からも劇場・ホール運営にまつわるさまざまな質問が出され、刺激的な講演になりました。

●作品づくりを体験した自主事業コース

自主事業Ⅰ（音楽）コースのコーディネーターを務めたのは、会場となった上田市交流文化芸術センターのプロデューサーで、地域創造おんかつチーフコーディネーターでもある小澤櫻作さんです。ホームグラウンドでのラボとあって、劇場の制作スタッフ、技術スタッフの全面協力によるプログラムとなりました。

まず、制作スタッフがアウトリーチ事業のコーディネートやスケジューリング、劇場広報についてなど実際に使われている資料を公開してノウハウを提供。最も力が入ったのは、ピアニストの中川賢一さん、ダンスユニットのセレノグラフィカ、演出家の岩崎正裕さんと共に行った作品づくりでした。

中川さんが子どもたちに対して行っているアウトリーチ・プログラム（ピアノ演奏を聴いて絵を描く、組曲『展覧会の絵』の『キエフの大門』の演奏付アナリーゼ＝楽曲分析）を体験した後、音楽×ダンス×演劇がクロスした創作にチャレンジ。参加者が描いた絵を展示したスタジオで、中川さんの演奏とともに、作曲家ムソルグスキーと友人の画家ハルトマンが登場するコントを交えながら、『キエフの大門』のモチーフをダン

スにした作品を、音響・照明付きで本格上演しました。

自主事業Ⅱ(演劇)コースのコーディネーターは、故・蜷川幸雄さんが高齢者劇団「さいたまゴールド・シアター」を立ち上げたことで知られる彩の国さいたま芸術劇場事業部長の渡辺弘さんです。今回は、公立文化施設に求められる役割が多様化していることを踏まえ、まず、八戸市、小美玉市、北九州芸術劇場など地域とさまざまな形で連携している「文化的コモンズ」の事例から、コーディネーターの重要性について学びました。

また、演劇については、九州を中心に地域演劇を多数取材し、「流行廃りとは関係なく、地域演劇は人が生きていることを映す純度の高い表現をつくり出している」というライターの大堀久美子さんと、実際に市民との演劇づくりを行っている演出家の柳沼昭徳さんから各地の事例を学びました。俳優の南波圭さん、演出家の内藤裕敬さんとワークショップを行い、それぞれの演劇のつくり方の一端にふれるなど、多彩なプログラムとなりました。

●“気づき”をテーマにしたホール入門コース

ホール入門コースのコーディネーターを務めたのは、倉敷市玉島に日本初のクリエイティブリユースの拠点「IDEA R LAB」を立ち上げた大月ヒロ子さんです。クリエイティブリユースとは、日常的に生み出される廃材をクリエイティビティ(創造力)により素敵なものに生まれ変わらせる取り組みのこと。廃材という資源の新たな活用方法として注目されています。今回のホール入門コースは、さまざまなアートプロジェクトに取り組んできた大月さんのナビゲートで、誰もが仕事をする上で欠くことのできない“気づく力”をテーマにしたワークショップが行われました。

2日目に挑戦した「廃材ダンス」では、切れた電球や端材など、サントミューゼから集めた廃材から好きなものを選んで撮影。その質感、形、廃材のつぶやきに耳を傾けてセレノグラフィカと共にダンスをつくり、廃材の拡大映像をバックに、小ホールで発表しました。

また、3日目には、空き家を活用したゲストハウス「たみ」を運営し、鳥取を拠点にアートプロジェクトを展開しているうかぶLLCの蛇谷りえさんと三宅航太郎さんが講師で登場。「ないことから発見する」というコンセプトで、目隠しをしたブラインド状態で街を歩き、視覚以外の音や臭いなどで街を感じて写真を撮るという非日常的な体験をしました。

「目が見えなかった時間はこれまでに経験したことのない異世界にいるようで、恐怖心と警戒心で一杯だった。ひとりで生きていけないことを思い知らされ、助け合うことの大切さを学んだ」「この音、このニオイは何?と思って歩くのが楽しかった」「音やニオイがきっかけで撮った写真は、何を写したかではなく、何が写っていたかが大切だと思った」と参加者たち。こうした体験を通じて、改めて“気づく力”について考える機会になったのではないでしょうか。

※お詫びと訂正
前号(7月号)の表紙目次内に以下の誤りがございました。お詫びして訂正させていただきます。
平成29年度「公立美術館共同巡回展開催助成事業」
(2か年単年度)→(単年度)

共通プログラムとして行われた弁護士・福井健策さんによる「2時間で学ぶ著作権の必須知識」

ステージラボ上田セッション プログラム表

	ホール入門コース	自主事業Ⅰ(音楽)コース	自主事業Ⅱ(演劇)コース
第1日	開講式／オリエンテーション・施設見学等		
第1日	「はじめまして、どうぞ、よろしく」 嵯峨創平、大月ヒロ子	「自己紹介」 小澤櫻作	「自己紹介」 渡辺弘、津村卓
第1日	全体交流会		
第2日	「セレノグラフィカの仕事を語る　からの　場所の探検」 セレノグラフィカ(隅地茉歩、阿比留修一)、大月ヒロ子	「公共ホールの役割」 小澤櫻作	「文化的コモンズ～地域におけるホール・劇場はどうあるべきか」 大澤寅雄、渡辺弘
第2日	「廃材ダンス　その1」 セレノグラフィカ、大月ヒロ子	「劇場スタッフとして身につけたいスキル～その1～」 小澤櫻作、田澤拓朗	「ワークショップを考える～体験篇」 南波圭、渡辺弘
第2日	「廃材ダンス　その2」 セレノグラフィカ、大月ヒロ子	「音楽ワークショップ」 中川賢一	「ワークショップを考える～検討篇」 南波圭、渡辺弘
第2日	共通プログラム「2時間で学ぶ著作権の必須知識」 福井健策		
第3日	「ここにしかないモノとは?」 うかぶLLC(三宅航太郎、蛇谷りえ)、大月ヒロ子	「演劇ワークショップ」 岩崎正裕	「地域演劇と市民参加劇の在り方を考える～事例篇」 大堀久美子、柳沼昭徳、渡辺弘
第3日	「リサーチ:ここにしかないモノを探す」 うかぶLLC、大月ヒロ子	「劇場スタッフとして身に付けたいスキル～その2～」 小澤櫻作、佐藤博樹	「地域演劇と市民参加劇の在り方を考える～検討篇」 柳沼昭徳、大堀久美子、渡辺弘
第3日	「ディスカッション:みる自由と発言する自由」 うかぶLLC、大月ヒロ子	「グループディスカッション」 小澤櫻作	「劇を創る①」 内藤裕敬、渡辺弘
第3日	「クリエイション～みんなの力を拡張して～」 うかぶLLC、大月ヒロ子	「稽古」 岩崎正裕、セレノグラフィカ、中川賢一、小澤櫻作	「劇を創る②」 内藤裕敬、渡辺弘
第4日	「プレゼント～発表する～」 うかぶLLC、大月ヒロ子	「リハーサル・本番」 岩崎正裕、セレノグラフィカ、中川賢一、小澤櫻作	「劇を創る③@」 内藤裕敬、渡辺弘
第4日	「振り返り」 大月ヒロ子	「振り返り」 小澤櫻作	「まとめ」 渡辺弘
第4日	修了式		

財団からのお知らせ

●「公共ホール音楽活性化事業」事業実施要綱および事業申込書等は、当財団のウェブサイトに掲載しています。
http://www.jafra.or.jp/j/guide/box/

●「公共ホール音楽活性化事業」に関する問い合わせ
芸術環境部　阿比留
Tel. 03-5573-4069
onkatsu@jafra.or.jp

●平成29年度「公共ホール音楽活性化事業（おんかつ）」実施団体募集

この事業は、市町村等（指定管理者等も含む）を対象に、オーディションにより選抜されたクラシックの演奏家（登録アーティスト）とコンサートの企画制作の経験を豊富にもつコーディネーターを派遣し、公共ホールでのコンサートと地域交流プログラム（参加体験型のミニ演奏プログラム）を共につくる事業です。事業の企画から実施までを、コーディネーターの派遣や担当者への研修を通してサポートします。実施に際しては、派遣に係る費用（謝金・交通費・宿泊費等）を地域創造が負担します。

皆さまの応募をお待ちしております。

※内容の詳細は、当財団ウェブサイト掲載の実施要綱をご確認ください。

募集締切：8月25日（木）

◎対象団体
次の市町村等を対象とする。
①市町村
②市町村の公共ホール指定管理者など

◎事業内容
原則3日間の連続した日程で、次の事業を実施する。
［公演］公共ホールで開催する有料のクラシック音楽公演（1公演）
［地域交流プログラム］学校や福祉施設等でのミニコンサートやワークショップなど、地域との交流を図る事業を4回（1日につき2回）実施する。

◎経費負担・支援内容
- 演奏家派遣経費（出演料、現地移動費を除く交通費、宿泊費等）
- 地域交流プログラムに係る経費（主にピアノ調律費：10万円限度）
- コーディネーターの派遣
- 全体研修会（事業実施に必要なノウハウ等の研修）および個別研修（現地への下見）の実施

平成28・29年度「公共ホール音楽活性化事業（おんかつ）」登録アーティスト

●岩崎 洵奈（いわさき じゅんな）［ピアノ］
東京藝術大学音楽学部器楽科卒業。ウィーン国立音楽大学ピアノ演奏科首席卒業、同大学院在籍中。文化庁海外派遣研修員。数々の国際コンクールで入賞を重ね、2010年第16回ショパン国際ピアノコンクール ディプロマ賞を受賞し、審査員のマルタ・アルゲリッチより賞賛を受ける。ヨーロッパ各地でリサイタルに出演。12年度シャネル・ピグマリオンデイズ参加アーティスト。15年CDデビュー。国内外にて、ソロリサイタルのみならず、オーケストラや室内楽での共演も積極的に活動している。

●坂口 昌優（さかぐち まゆ）［ヴァイオリン］
桐朋女子高等学校音楽科を首席で卒業し、同大学を経て同大学研究科を修了後、ブリュッセル王立音楽院に文化庁新進芸術家海外研修員として留学。第14回アルベルト・クルチ国際ヴァイオリンコンクール（ナポリ）第2位を受賞。ソリストとして、オーケストラ・アンサンブル金沢、東京交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団等と共演。現在、石川県立金沢辰巳丘高校芸術コース非常勤講師。

●加藤 文枝（かとう ふみえ）［チェロ］
東京藝術大学、同大学大学院卒業。学内にて安宅賞、アカンサス音楽賞、三菱地所賞受賞。パリ市立音楽院卒業。第8回ビバホールチェロコンクール第1位。第13回松方ホール音楽賞・特賞受賞。第7回・第8回東京音楽コンクール弦楽部門第2位。FLAME国際コンクール第3位。平成23年度京都市藝術文化特別奨励者。2011・12年度ロームミュージックファンデーション奨学生。

●福川 伸陽（ふくかわ のぶあき）［ホルン］
NHK交響楽団首席ホルン奏者。第77回日本音楽コンクール ホルン部門1位。ソリストとして、日本フィルハーモニー交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、横浜シンフォニエッタ他と共演。その演奏は「日本のホルン演奏の歴史を変えたといっても過言ではない」と評され、吉松隆『Spiral Bird Suite』、藤倉大『ぽよぽよ』、酒井健治『Das Lebewohl』など、多くのホルンのためのソロ作品を献呈されている。キングレコードより『Rhapsody in Horn』『Rhapsody in Horn 弐』をリリース、「レコード芸術」誌で特選盤に選ばれた。

●喜名 雅（きな まさし）［テューバ］
沖縄出身。東京藝術大学卒業。2004年ドイツ・マルクノイキルヒェン国際コンクール ディプロマ受賞。同年7月藝大フィルとボザ作曲コンチェルティーノを共演。第75回読売新人演奏会出演。10年日本管打楽器コンクール第2位受賞。13年度「バンドジャーナル」誌（音楽之友社）ワンポイントレッスン執筆担当。洗足学園音楽大学、埼玉県立大宮光陵高等学校非常勤講師。

●Vitaly Yushmanov（ヴィタリ・ユシュマノフ）［バリトン］
サンクトペテルブルク生まれ。マリンスキー劇場のアカデミーのソリストとして、日本を含む5カ国をツアー。メンデルスゾーン・バルトルディ音楽院卒。2012年、『ドン・ジョヴァンニ』の主役で6公演、13年1月、ライプツィヒ・ゲヴァントハウスの「ニューイヤーコンサート」に出演。13年秋の来日以来、オペラ、ソロリサイタル、オーケストラ共演など、日本各地で演奏活動を展開。15年2月、CD『歌の翼に』をリリース。

©Shingo Azumaya

●塚越 慎子（つかごし のりこ）［マリンバ］
歌心溢れる繊細かつ熱狂的な演奏で、現在最も注目を集めるマリンバ奏者。2009年には世界最大の打楽器フェスティヴァルであるPASIC（国際打楽器協会インターナショナルコンヴェンション）においてソリストとして出演。アメリカ・ノーステキサス州立大学で研鑽を積み、パリ国際マリンバコンクール第1位など数多くのコンクール歴を誇る。CDはこれまでに2枚をリリース。12年、第22回出光音楽賞受賞。

●平成29・30年度「公共ホール音楽活性化アウトリーチフォーラム事業」実施団体募集

この事業は、クラシック音楽のアウトリーチ手法および事業展開のノウハウを地域に蓄積するため、都道府県等と地域創造の共催により、都道府県全域の公共ホール担当者等を対象にしたシンポジウムのほか、新進演奏家とともにアウトリーチ手法を開発する研修、域内市町村でのアウトリーチ、市町村および都道府県規模のクラシックコンサートなどを、2カ年にわたり実施するものです。

事業を通じて、公共ホール音楽活性化事業(おんかつ事業)で培われたノウハウを都道府県へ伝達するとともに、地域でアウトリーチを担う人材の育成や都道府県の公共ホールを核とした音楽関係者・公共ホール関係者のネットワークづくりを支援します。

実施要綱などの詳細は当財団のウェブサイトをご覧ください。

募集締切:8月31日(水)必着

◎対象団体
①都道府県
②都道府県の公共ホールの指定管理者等

◎事業内容
[研修事業]都道府県が主体となって、シンポジウム、全体研修会、アウトリーチ研修等を実施する。
[市町村公演事業]以下のプログラムを域内の4ないし6市町村で実施する。
①地域交流プログラム:学校でのアウトリーチ(ミニコンサート)など、地域との交流を図る事業を6回(1日につき2回)実施する。
②コンサート:市町村の公共ホールで、有料のクラシック音楽演奏会を1回実施する。
[総括公演プログラム事業]都道府県の公共ホールで、派遣演奏家全員が出演する有料のクラシック音楽演奏会を1回実施する。

◎地域創造が行う経費負担・支援内容
・演奏家派遣経費(出演料、交通費、宿泊費、楽器運搬費補助等)
・事業経費の一部
・コーディネーター等の派遣

●平成29年度「邦楽地域活性化事業」実施団体募集

この事業は、都道府県・政令指定都市等のホールが主体となり、市町村のホールと連携し、邦楽分野での学校アウトリーチやワークショップ、コンサート等を実施するものです。本事業を実施することにより、住民に邦楽の魅力にふれる機会を提供するとともに、アウトリーチ等のノウハウを獲得することができます。

実施要綱などの詳細は当財団のウェブサイトをご覧ください。

募集締切:9月9日(金)必着

◎対象団体
都道府県、政令指定都市(公共ホールの指定管理者を含む)等

◎事業内容
[研修プログラム]邦楽事業の制作手法や考え方を、事業参加者をはじめとした地域の関係者が理解・共有する研修会と、参加演奏家と地域交流プログラムの中身を具体化する合宿形式の研修会を実施する。
[地域交流プログラム(原則3団体)]
・学校でのアウトリーチを原則4回(1日につき2回)実施
・市町村ホールでのホールプログラム(ワークショップ等)を1回実施
[総括公演プログラム]都道府県等のホールで参加演奏家が出演する有料のコンサートを1回実施する。

◎地域創造による経費負担・支援内容
・演奏家に係る経費(報酬、現地移動費を除く旅費、楽器運搬費等)
・各プログラムに係る経費の一部
・専門家(コーディネーター等)の派遣

●理事会、評議員会の開催結果

6月6日に第106回理事会、21日に第77回評議員会が開催され、平成27年度決算、事業報告および公益目的支出計画実施報告が承認されました。

評議員会では、役員の任期満了に伴い、理事13名、監事2名が選任されました。また、22日に開かれた新たな役員による理事会において、梶田理事長、石川常務理事が再任されました(詳細はウェブサイト上にて掲載)。

●「公共ホール音楽活性化アウトリーチフォーラム事業」に関する問い合わせ
芸術環境部　佐藤
Tel. 03-5573-4185

●「邦楽地域活性化事業」に関する問い合わせ
総務部　磯部
Tel. 03-5573-4143

財団からのお知らせ

●平成28年度「ステージラボ／公立ホール・劇場マネージャーコース」「文化政策幹部セミナー」参加申し込み方法
本誌同封の募集要領で概要詳細をご覧いただけます。また参加申し込みは当財団ウェブサイト内の「様式箱」→「ステージラボ」・「文化政策幹部セミナー」よりメールにてお申し込みください。
http://www.jafra.or.jp/j/guide/box/
◎申し込み・問い合わせ
芸術環境部　上木・宇野・戸舘
Tel. 03-5573-4068・4066

●平成28年度公立美術館活性化事業
【市町村立美術館活性化事業】
◎「ポール・デルヴォー版画展～幻想のヴィーナスたち～」
•大垣市スイトピアセンター・アートギャラリー（岐阜県大垣市／2016年9月10日～10月16日）
•市川市芳澤ガーデンギャラリー（千葉県市川市／10月22日～11月27日）
•田原市博物館（愛知県田原市／12月3日～2017年1月22日）
【公立美術館共同巡回展開催助成事業】
◎ベルギー近代美術の精華展
•姫路市立美術館（兵庫県姫路市／2016年7月2日～8月25日）
•島根県立美術館（島根県松江市／9月3日～10月19日）
•徳島県立近代美術館（徳島県徳島市／10月26日～12月11日）
◎「パリに生きる　パリを描く —M氏秘蔵コレクションによる—」
•笠岡市立竹喬美術館（岡山県笠岡市／2016年9月10日～10月23日）
•稲沢市荻須記念美術館（愛知県稲沢市／10月29日～12月11日）
•神戸市立小磯記念美術館（兵庫県神戸市／12月17日～2017年2月19日）
【公立美術館共同地域交流プログラム助成事業】
◎忠臣蔵から村文書まで—西播磨のアーカイブ—
•たつの市立龍野歴史文化資料館（兵庫県たつの市）
•相生市立歴史民俗資料館（兵庫県相生市）
●公立美術館活性化事業に関する問い合わせ
総務部　吉崎・三浦
Tel. 03-5573-4053

●平成28年度「ステージラボ／公立ホール・劇場マネージャーコース」&「文化政策幹部セミナー」参加者募集

東京・赤坂の地域創造事務局を会場に「ステージラボ／公立ホール・劇場マネージャーコース」（10月12日（水）～14日（金））と「文化政策幹部セミナー」（10月12日（水）～13日（木））を同時開催します。今年度は「地域と人をつなぐ芸術文化活動」を両コースのテーマとします。

いま全国各地では地域に根ざした芸術文化活動がさまざまなスタイルで展開されています。公立文化施設や行政が、地域の文化団体や教育機関、福祉施設、まちづくり団体、民間企業など、地域におけるさまざまな文化に係わる担い手と協働することによって、分野と分野を繋ぎ、人と人を結び、地域の創造的な価値を高めています。芸術文化／アートがもっている多様な価値観は、地域に暮らす全ての人たちと共に地域に活力をもたらし、誰ひとり孤立しない社会を目指す上でのヒントを与えてくれるかもしれません。参加する皆さんが主催者や当事者の立場として関わられている地域の文化活動等の経験や知見を踏まえながら、多彩な講師陣と共に「地域と人をつなぐ芸術文化活動」について議論や考察をしていきます。

※参加申込方法や概要詳細等については同封の募集要領をご覧ください。

募集締切：9月4日（日）必着

◎ステージラボ／公立ホール・劇場マネージャーコース

［コーディネーター］大澤寅雄（（株）ニッセイ基礎研究所 芸術文化プロジェクト室准主任研究員）
［内容］ホール等の運営に活かすことのできる地域文化プログラムや地域との関わり方などについてのレクチャーやグループワークを実施。

◎文化政策幹部セミナー

［コーディネーター］野田邦弘（鳥取大学地域学部地域文化学科教授）
［内容］文化政策的な視点から、芸術文化が地域にもたらす創造的な成果等を考察するレクチャーやグループワークを実施。

●平成28年度「公立美術館活性化事業」開幕

今年度の公立美術館活性化事業では、3件の共同巡回展が実施され、全国9会場で展覧会が開催されます。

その最初を飾る「ベルギー近代美術の精華展」が7月2日に姫路市立美術館で開幕しました。この展覧会は、公立美術館が自主的に企画した共同巡回展に対して地域創造が助成する「公立美術館共同巡回展開催助成事業」で、日本・ベルギー友好150周年を記念し、同館のベルギー美術コレクションを中心に、国内の美術館の所蔵作品約70点を展示します。

市町村立美術館を対象に地域創造が企画を提示した共同巡回展を行う「市町村立美術館活性化事業」では、姫路市立美術館所蔵作品による「ポール・デルヴォー版画展～幻想のヴィーナスたち～」を開催。9月10日より3会場を巡回します。

そのほか、今年度から新たに始まった「公立美術館共同地域交流プログラム助成事業」として、「忠臣蔵から村文書まで」展と連動したシンポジウムやフィールドワークによる交流プログラムを実施します。

もうひとつの公立美術館共同巡回展開催助成事業である「パリに生きる　パリを描く—M氏秘蔵コレクションよる—」展は、9月10日から笠岡市立竹喬美術館で始まります。日本近代の画家たちにパリがどのように映ったのかを、個人コレクターの秘蔵作品を中心に開催3館の各コレクションを関連づけながら紹介します。

左から、「ベルギー近代美術の精華展」ポスター、「パリに生きる　パリを描く—M氏秘蔵コレクションよる—」展チラシ、「ポール・デルヴォー版画展～幻想のヴィーナスたち～」チラシ ©Foundation Paul Delvaux,Sint-Idesbald-SABAM Belgium／JASPAR 2016 G0447

地域通信

●データの見方
情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示してあるのは開催地です。マークが付いている事業は地域創造の助成事業です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介しています。

●地域ブロック
[北海道・東北]北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
[関東]茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
[北陸・中部]新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
[近畿]三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
[中国・四国]鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知
[九州・沖縄]福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

●情報提供先
ファックス、電話、e-mailでお願いします。
Fax. 03-5573-4060　Tel. 03-5573-4066
letter@jafra.or.jp
地域創造情報担当　宇野・小川

●2016年10月号情報締切
9月2日(金)

●2016年10月号掲載対象情報
2016年10月～12月に開催もしくは募集されるもの

※お詫びと訂正
前号(7月号)の「夏のフェスティバル特集」欄に以下の誤りがございました。お詫びして訂正させていただきます。
P.3　富山県南砺市「スキヤキ・ミーツ・ザ・ワールド2016」本文14行目
公園→公演

北海道・東北

●北海道中標津町

中標津町総合文化会館
〒086-1002　中標津町東2条南3-1-1
Tel. 0153-73-1131　大森透
http://www.zncs.or.jp/shirubetto/

一曲からつながる・つなげるプロジェクト「またあえる」中標津公演

開館20周年を迎え、これまでの企画・制作能力とクラシック音楽を通した地域づくりの知識を生かし2014年にスタートしたプロジェクト。今回は集大成として、地元の吹奏楽団と合唱団、また中標津高校の合唱部との共演や、2007年から毎年中標津を訪れ、演奏会をワークショップを実施しているフルート奏者・荒川洋を中心に創作された中標津に伝わるアイヌ民話を基にしたオリジナルのミニオペラを上演する。
[日程]8月28日
[会場]中標津町総合文化会館

昨年のコンサート

●山形県酒田市

酒田市美術館
〒998-0055　酒田市飯森山3-17-95
Tel. 0234-31-0095　熱海熱
http://www.sakata-art-museum.jp/

佐藤真生の世界展「間(Ma)」

油彩画にとどまらず、立体や映像、空間芸術なども手がけている酒田市出身の画家・佐藤真生の展覧会。空間や時間、人間などに用いられる“間”をキーワードとして、そこに含まれる記憶や環境、人や地域との関わりなどの意味合いを深めながら、これまでの作品と新作を展示。また地元小学生との共同作品制作・展示を通して、故郷の人々と共に広がるイメージを表現する。
[日程]7月30日～9月4日
[会場]酒田市美術館

関東

●埼玉県越谷市

サンシティホール
〒343-0845　越谷市南越谷1-2876-1
Tel. 048-985-1113　纐纈龍治
http://www.suncityhall.jp/

夏休みこどもワークショップ参加者による作品展　未来アート工房!3～ヒミツの森の展覧会～

地域の子どもたちが、モノヅクリを通して自由な表現を楽しみ、仲間たちとの協力や創造力・感性などを学び、自分たちのアイディアがカタチになる喜びや達成感を実感してもらう企画。今年は30人の小学生たちと「私たちが暮らす街の未来に残したい森づくり」をテーマに作品をつくり展示。専門家を交え、アイディアを自由に発表していく「子ども会議」も実施される。
[日程]8月5日～7日
[会場]サンシティホール

●東京都渋谷区

渋谷区文化総合センター大和田
〒150-0031　渋谷区桜丘町23-21
Tel. 03-3464-3252　瀬川美保
http://www.shibu-cul.jp/

2016大和田夏祭り

昨年から始まった夏のフェスティバル。今年は演奏や語り、映像、そしてライヴ・ペインティングが一体となる現代版『坂田明・平家物語』の公演や、スマホがあればいつでもどこでも体操ができるというコンセプトで開発された森山開次による「WEB体操第1」のワークショップなど、多彩なパフォーマンスが開催される。
[日程]8月1日～4日、6日、7日
[会場]渋谷区文化総合センター大和田 伝承ホール

●神奈川県小田原市

小田原市文化政策課
〒250-8555　小田原市荻窪300
Tel. 0465-33-1709　松井真理子
http://www.city.odawara.kanagawa.jp/

スクランブル・ダンスプロジェクト～みんなで一緒につくるダンスワークショップ～

将来的に、障がいのある人とない人が共につくり上げる公演(演劇・ダンス等)の開催を目指してスタートしたプロジェクト。舞踏家の大野慶人を講師に迎え、すべての人が共にダンスを楽しみ、自由に作品づくりを体験する公開ワークショップを開催。
[日程]8月6日
[会場]三の丸小学校

北陸・中部

●富山県南砺市

SCOT
〒939-2513　南砺市利賀村上百瀬70-2
Tel. 0763-68-2356　重政良恵
http://www.scot-suzukicompany.com

SCOTサマー・シーズン2016～利賀はますます上機嫌

1976年に東京から富山県利賀村に拠点を移し、合掌造りの民家を改造した劇場を利賀山房と名づけて活動を始めた鈴木忠志率いるSCOT。その後、利賀村(現南砺市)と協力して6つの劇場・稽古場・宿舎などを増設。1982年には、日本初となる世界演劇祭「利賀フェスティバル」を開催した。今年は日中韓3カ国語版『ディオニュソス』を上演するほか、アジア演出家による競演やシンポジウム「現代演劇の役割と課題」などが行われる。
[日程]8月26日～9月4日
[会場]利賀芸術公園

●石川県金沢市
金沢能楽美術館(金沢芸術創造財団)
〒920-0962 金沢市広坂1-2-25
Tel. 076-220-2790　山内・山下
http://www.kanazawa-noh-museum.gr.jp/

開館10周年記念Ⅱ 特別展「狂言―笑いの美意識―」

開館10周年を記念した初の狂言展。面や装束、江戸時代の狂言画など、笑いの芸術である狂言の妙を堪能する作品40件を展示。また、金沢ゆかりの人間国宝、六世野村万蔵(和泉流狂言方)を特集し、前期では野村万蔵家所蔵品、後期では野村万作家所蔵品を展示する。
[日程]7月2日～8月7日、11日～9月25日
[会場]金沢能楽美術館

●福井県福井市
福井県立美術館
〒910-0017 福井市文京3-16-1
Tel. 0776-25-0452　戸田浩之
http://info.pref.fukui.lg.jp/bunka/bijutukan/tokusetsu/h28_matabe/gallery.html

福井移住400年記念 岩佐又兵衛展

桃山時代末から江戸時代初めに活躍した岩佐又兵衛が、京都から福井に移り住んで400年を記念した展覧会。福井の豪商金屋家に秘蔵されていた屏風絵10図が分散後100年を経て初めて一堂に展示されるほか、代表作を数多く制作した39歳から60歳までの福井時代を中心に、国宝や重要文化財を含む40件の作品により、「奇想の絵師」の魅力を紹介する。
[日程]7月22日～8月28日
[会場]福井県立美術館

●山梨県甲府市
山梨県立美術館
〒400-0065 甲府市貢川1-4-27
Tel. 055-228-3322　森川もなみ
http://www.art-museum.pref.yamanashi.jp/

美し、やまなし、パワー! 山梨の女性アーティストたち

山梨県にゆかりのある明治から現代までの女性アーティストに焦点を当て、29作家86点の作品を展示。それぞれの時代に女性アーティストが置かれていた立場や挑戦を浮き彫りにするとともに、女性をモチーフとした作品や、インスタレーション、デザイン、マンガなど幅広い分野に広がる作品を通して、パワーと個性に満ちた山梨芸術の一面を紹介する。
[日程]6月25日～8月21日
[会場]山梨県立美術館

●長野県大町市
原始感覚美術祭実行委員会
〒398-0001　大町市平10901
(西丸震哉記念館内)
Tel. 0261-22-1436　杉原信幸
http://primitive-sense-art.nishimarukan.com/

信濃の国 原始感覚美術祭2016 地は語る、水のかたりべ

原始感覚を宿し、呼び覚ますアートフェスティバル。7年目の今年は「水のかたりべ」をテーマに、国内外から滞在制作を行う招待作家、公募作家が訪れ、地域の人と出会い生まれる表現を創造し、"木崎湖の声"を語る作品を制作・展示する。オープニングイベントの「海ノ口音楽祭」では、ライブや即興朗読劇、シンポジウムなども開催する。
[日程]8月6日～9月4日
[会場]木崎湖畔、市街地、千年の森ほか大町市内各所

●名古屋市
なごや子どもまちかど文化プロジェクト実行委員会
〒460-0008　名古屋市中区栄3-18-1　ナディアパーク8F
(名古屋市文化振興事業団内)
Tel. 052-249-9387　宮田健秀
http://time-tunnel.org/

金山ぐるりタイムトンネル2016 ショウワ・キッズアートカーニバル

子どもたちが伝統文化と現代アートを日常の中で体験できるイベント。2014年の江戸、15年の明治大正に続き、シリーズ最後の今年は"昭和"がテーマ。金山駅周辺の各会場が昭和の雰囲気に彩られ、展示やワークショップなどの体験型プログラムのほか、林家たい平プロデュースの落語公演や井上あずみとオーケストラによるコンサートなど、さまざまなプログラムが行われる。
[日程]8月20日～22日
[会場]日本特殊陶業市民会館、金山南ビルほか金山総合駅周辺

●愛知県岡崎市
岡崎市美術館
〒444-0864　岡崎市明大寺町茶園11-3
Tel. 0564-51-4280　杉山明美
http://www.city.okazaki.aichi.jp/100th/takara/p018728.html

岡崎市制100周年記念事業 おかざきの美術100年展

市制100周年記念事業「新世紀岡崎　飛躍祭(100歳)」の1事業として開催。「たから」「かがやき」「きぼう」の3テーマで構成され、特に、「たから」では市制施行の前年、大正天皇大嘗祭に新穀を奉納した六ツ美悠紀斎田に関連して制作された宮内庁三の丸尚蔵館が所蔵する《大正度悠紀・主基地方風俗歌屏風》が特別展示される。
[日程]7月30日～8月21日
[会場]岡崎市美術博物館

近畿

●兵庫県豊岡市
豊岡市民プラザ
〒668-0031　豊岡市大手町4-5　アイティ7F
Tel. 0796-24-3000　居相歩美
http://platz-npo.com/

内藤裕敬と関西の俳優たち×市民演劇『あらし』

オーディションによって選ばれた豊岡市民が南河内万座一座座長・内藤裕敬率いる関西の俳優たちとのコラボレーションにチャレンジ。内藤による演出と脚本、プロの俳優たちとの演劇創作を通じて、地域の文化芸術活動、および地元の人材育成の活性化、また深化を目的とする演劇プロジェクト。
[日程]7月30日、31日
[会場]豊岡市民プラザ

昨年の演劇プロジェクト公演『豊岡駅前小鳥店Ⅲ』(作・演出:内藤裕敬)

中国・四国

●鳥取県日南町
鳥取県文化振興財団
〒680-0017 鳥取市尚徳町101-5
Tel. 0857-21-8700　内田誠
http://cms.sanin.jp/p/zaidan/5/1/7/

鳥取県青少年郷土芸能の祭典2016

平成15(2003)年度から開催している伝統芸能フェスティバル。出演者は郷土芸能を伝承する高校生以下の青少年を中心に構成されている。毎年テーマに沿って、各区域の郷土芸能を披露する。今年はテーマを「発掘」「伝承」とし、米子市や日南町など県西部地区で伝承されてきた郷土芸能に焦点を当て、和太鼓や地歌舞伎、舞踊などの8演目が披露される。
[日程]8月28日
[会場]日南町総合文化センター さつきホール

●島根県松江市

島根県立美術館
〒690-0049　松江市袖師町1-5
Tel. 0852-55-4700　山根智子
http://www.shimane-art-museum.jp/

トワイライトミュージアム2016

小泉八雲も愛したと言われる美しい落日を望む宍道湖のほとりにたたずむ島根県立美術館。夕日を見るため来館する人も多いため、景観を生かして、日没後30分まで同館ロビーに、地元木工家によるワークショップで参加者がつくり上げた行灯の明かりを灯す。行灯の明かりと対岸の夜景が来館者を楽しませるほか、CO_2削減、電力削減も果たす。
［日程］6月22日～9月12日
［会場］島根県立美術館

●岡山県笠岡市

笠岡市立竹喬美術館
〒714-0087　笠岡市六番町1-17
Tel. 0865-63-3967　上薗四郎
https://www.city.kasaoka.okayama.jp/site/museum/

没後70年　津田白印展

浄土真宗の僧侶であり、南画家であった津田白印（1862～1946）は、地元笠岡に育児院や女学校を創設するなど献身的な活動も行い、その人柄と絵画の魅力によって、今も市民に「白印さん」と呼ばれ親しまれている。近年の広域にわたる調査によって新たに確認された37点を含む85点を展示し、これまでにない規模で白印芸術の真髄を伝える。
［日程］7月9日～9月4日
［会場］笠岡市立竹喬美術館

●岡山県瀬戸内市

喜之助フェスティバル市民実行委員会
〒701-4221　瀬戸内市邑久町尾張465-1
Tel. 090-8247-4680　内田明生
http://www.kinosukefes.com/

第28回瀬戸内・喜之助フェスティバル

瀬戸内市出身の人形師・竹田喜之助の業績を称え、毎年8月に開催される人形劇の祭典。プロとアマチュア合わせて14の人形劇団が、6月に整備された喜之助シアターなどの8会場で、2日間にわたり公演を行う。アマチュア劇団は喜之助の弟子から定期的に指導を受けて培った糸あやつり人形劇の技能を披露する。
［日程］8月20日、21日
［会場］瀬戸内市中央公民館、瀬戸内市民図書館ほか

●香川県高松市

サンポートホール高松
〒760-0019　高松市サンポート2-1
Tel. 087-825-5010　大喜多菜摘
http://www.sunport-hall.jp/

演劇どっとこむ

演劇学科のある四国学院大学との協働事業。プロの演劇人を講師に招き、中高校生を対象にした表現力やコミュニケーション力がテーマの演劇ワークショップを開催。5年目となる今年は、講師に舘そらみ（劇団ガレキの太鼓）を招き、5日間にわたりさまざまな演劇体験をし、最終日のミニ発表会で成果を披露する。
［日程］8月17日～21日
［会場］サンポートホール高松

●香川県高松市

レクザムホール（香川県県民ホール）
〒760-0030　高松市玉藻町9-10
Tel. 087-823-3128　片井香
http://kenminhall.com/

KJO（かがわジュニア・フィルハーモニック・オーケストラ）第15回定期演奏会～台湾との青少年交流事業10周年記念～

2001年に結成されたかがわジュニア・フィルハーモニック・オーケストラの定期演奏会。指導には地元の市民楽団員が協力しており、全パートに初心者育成のコースを設けるなど、充実した体制が整っている。15回目の節目を迎える今年は協奏曲のソリストに同楽団のOGを迎えるほか、台湾のジュニアオーケストラと演奏交流10周年を記念し、武陵高級中学管弦楽団から15人が加わり、合同演奏が行われる。
［日程］8月28日
［会場］レクザムホール（香川県県民ホール）

かがわジュニア・フィルハーモニック・オーケストラ（昨年の定期演奏会）

九州・沖縄

●北九州市

北九州市芸術文化振興財団
〒803-0812　北九州市小倉北区室町1-1-1-11
Tel. 093-562-2655　黒崎あかね
http://www.kitakyushu-performingartscenter.or.jp/

女性の眼と句で綴る演劇『風、騒ぐ。』

俳句をモチーフにした演劇公演。女性の社会進出が進むなか、女性の視点から物事を描くことの意義や演劇と俳句との異なるジャンルを融合し、新たな作品をつくることで芸術の多様性を発信することを目的とし、北九州近郊に住む女性から俳句を募集、公開選句ライブで選ばれた6句をモチーフに、作・演出の鵜飼秋子がイメージを膨らませ演劇に昇華した作品が上演される。
［日程］8月27日、28日
［会場］北九州芸術劇場

●長崎県大村市

大村市文化・スポーツ振興財団
〒856-0836　長崎県大村市幸町25-33
Tel. 0957-20-7207　坂口裕司
http://www.omurace.or.jp/

OMURA・ミュージック・キャンプ2016～サマー編

今年で8回目となるミュージックキャンプ。県内外から弦楽器を学ぶ子どもたちが集まり、シーハットおおむらを拠点とするプロオーケストラ・OMURA室内合奏団メンバーや国内外で活躍するアーティストによる室内楽のレッスンと弦楽合奏が行われる。リハーサルの様子はすべて無料で公開され、集大成として最終日に「ジュニアオーケストラワンコインコンサート」を開催。コンサート前のロビーでは楽器体験ができるコーナーも設置される。
［日程］8月11日～14日
［会場］シーハットおおむら

●熊本市

熊本市現代美術館
〒860-0845　熊本市中央区上通町2-3
びぷれす熊日会館3F
Tel. 096-278-7500　坂本顕子
http://www.camk.or.jp/

かえってきた！魔法の美術館 展 —かがやけ、くまもとの笑顔たち—

アーティストの発想力と最先端のテクノロジーによって生み出された、魔法のような体感型アート作品を紹介する展覧会。2013年の同展をさらにバージョンアップした内容となっている。熊本出身の緒方壽人、藤元翔平による震災復興をテーマにした最新作が展示されるほか、会期中は映画上映や人形劇、ピアノ演奏など、さまざまなイベントが開催される。
［日程］6月25日～9月19日
［会場］熊本市現代美術館

＊地域創造レターは再生紙を使用しています

▼—今月のレポート

財団の支援事業や地域の創造活動に参考になる催しを取り上げて
レポートします

大阪市

山本能楽堂
初心者のための上方伝統芸能ナイト（英語編）

お茶屋「島之内たに川」による「お座敷遊び」実演の様子。壁に英語字幕が見える

●初心者のための上方伝統芸能ナイト（英語編）
［会期］2016年7月9日
［会場］山本能楽堂
［主催］公益財団法人山本能楽堂
［共催］大阪商工会議所、大阪市
［協力］大阪観光局
［出演］浪曲：『番長皿屋敷』（春野恵子）、お座敷遊び：上方唄『いざや』『金比羅ふねふね』（島之内たに川、清一、多佳）、落語：『いらち俥』（桂かい枝）、能：『高砂』（シテ：山本章弘）

●山本能楽堂（2009年に公益財団法人化）
1927年に金融業で財をなした山本家の10代目、先代山本博之によって創建。大阪大空襲により消失し、50年に再建。約90年間にわたって能を継承してきた大阪で一番古い能楽堂。2006年に国登録有形文化財指定。同年「大阪カルチャーナイト事業」の一環として大阪商工会議所と上方伝統芸能の見所を集めた「大人のための年越しライブ」を行ったのをきっかけに、「初心者のための上方伝統芸能ナイト」をシリーズ化。この他の主な事業は、たにまち能公演（山本定期能／年6回）、夜7時開演の初心者向け「とくい能」、初心者のための能体験講座「まっちゃまちサロン」「能活」、小学生を対象とした「能と遊ぼう！！」「アートによる能案内」、能の小学校アウトリーチ、市庁舎・公園・水上などさまざまなところで実施している「ストリートライブ能」、grafの服部滋樹、やなぎみわ、藤本隆行、井上信太ら現代アーティストとのコラボレーション、「水の輪」などの新作能ほか。また、2010年からブルガリアと能による交流を続け、この実績により2015年国際交流基金賞受賞。能楽堂を魅力ある空間として活用するユニーク・ヴェニュー事業など。
英語、中国語による能の解説付き公演、体験講座、能楽堂の見学会は随時実施。

今年3月、政府の「明日の日本を支える観光ビジョン構想会議」が、2020年の訪日外国人旅行者数を4,000万人（2015年実績の約2倍）とするビジョンを発表。観光資源として公的施設や文化財などの魅力を高めるとし、多言語対応などへの支援を打ち出した。また、東京都歴史文化財団が「文化施設の多言語対応に係る調査報告書」を発行するなど、公立文化施設でもインバウンド対応に注目が集まっている。

古典芸能の世界で、こうした取り組みのモデルとも言える事業を積極的に展開しているのが、大阪の山本能楽堂だ。7月9日、外国人向けに行われている「初心者のための上方伝統芸能ナイト（英語編）」を取材した。

●

この催しの特徴は、ひとつの芸能だけを披露するのではなく、上方芸能（能・狂言・文楽・上方舞・落語・講談・浪曲・女道楽・お座敷遊び）からいくつかを選び、気軽に比較して楽しめるよう各15分のハイライト上演をしていること。コーディネートを、大阪で一番古い歴史をもつ能楽堂が担っていること。実演家が知恵を出して英語のコンテンツをつくっていることだ。2006年から月2回ペースで実施し、今回で145回目。英語編がスタートしたのは11年で、今年度の実施予定は5回だ。

9日は、案内役が英語で進行しながら、春野恵子の英語浪曲『番長皿屋敷』、桂かい枝の英語落語『いらち俥』、そして、お座敷遊びの『金比羅ふねふね』と地唄舞『いざや』、山本章弘がシテを務める本格的な能『高砂』が詞章の英語字幕付で上演された。能楽堂の見物席は2階を含めて227席。小さな芝居小屋のような雰囲気で、力のある演者による芸能を至近距離で体感できる。能を「most sleepy performance」、正座を「pernishment」と紹介し、「いざや」を「Let's go」と訳すなど、わかりやすく、ユーモア満載のプログラムになっていた。

日本文化を勉強しているフランス人留学生の感想は、「一度に複数の伝統芸能が見られてよかった。落語はとてもわかりやすく、面白かった」だった。その落語では、うどんの食べ方で笑わせる“仕草オチ”、大統領への挨拶の「How are you」を「Who are you」と言い違える“地口オチ”、噺の最後で落とす“仕込みオチ”など、落語の形式を英語で万国共通の笑いに仕立てていた。また、節と啖呵のある浪曲を英語にした春野は、「翻訳すれば浪曲になるわけではなく、三味線のお姉さん、今は講談師になったアメリカ人の春子ローズさん、（能楽堂事務局長の）山本佳誌枝さんたちと節に乗る言葉を探して試行錯誤した。節、啖呵、三味線のメロディ、演技とさまざまな要素のある浪曲という語り芸を知ってほしくて、海外公演もやっている」と話す。

山本事務局長は、「能楽堂は敷居が高いというイメージがあるが、それを払拭したいと思ってこの10年活動してきた。2004年に夫の山本章弘が三代目（の名跡）を継承したのを機に、この能楽堂の空間を活かし、普及・啓発事業に特化しようと考えた」と言う。そうした“開かれた能楽堂”を目指すなかで、当時大阪商工会議所が大阪の夜を文化で安全に楽しめる街にしたいと取り組んでいた「大阪ナイトカルチャー事業」に参加したのがきっかけとなり、上方芸能をダイジェストで紹介するイベントが誕生。以来、外国人観光客に向けての工夫も重ねられてきた。

「大阪は豊かな上方芸能が花開いた街であり、地域遺産であるこれらを知ってもらいたかった。能を学びに来たブルガリア人留学生のペトコ・スラボフさんとの出会いから、彼と一緒に能楽を普及する英語アプリ「OHAYASHI sensei」「We Noh!」もつくった。現代アーティストとも新作能をはじめいろいろな企画をやっている。これからも“開かれた能楽堂”として、人が行き交い、出会う、新しい創造の場になればと思っている」（山本事務局長）

ジャンルミックスの新展開として、『船弁慶』や真田幸村をテーマに能、文楽、落語、講談が共演するシリーズも継続して実施している。実演団体自らがその多彩な人脈を生かして取り組むからこそできる企画ではあるが、現代アーティストとコラボしても、路上でストリートライブ能をやってもびくともしない、芸能の底力を見た気がした。　　（地域創造編集部・坪池／清宮）